

ありがとうファンド(愛称ファンドの宝石箱)  
追加型投信 / 内外 / 資産複合 / ファンド・オブ・ファンズ  
分配金再投資専用

ありがとう投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)  
第304号 (社)投資信託協会会員

(最後にご挨拶の文章が掲載されておりますのでご覧いただきたいと思ます)

5年経ってもまだ始まったばかり

2004年9月1日に設定・運用を開始したありがとうファンドも今月の末になると丸5年の時を刻むこととなります。永遠に近い期間運用することを目指すファンドですので5年間などまだ始まったばかりです。

とは言いながら5年というのも結構な年月です。ファンドオブファンズの成り立ちと絡めて少し振り返ってみたいと思ます。

ファンドオブファンズは投資信託に投資する投資信託です。ファンドに投資するだけだから簡単にできると思われるかもしれませんがそうでもないのです。まず投資対象のファンドを厳選しなければなりません。長期投資に適した運用哲学を持っているか? その哲学を実現できるノウハウはあるか? 運用成績は? 決して短期的な値上がりではなく長期に輝いてくる成績を残せる力があるかどうか? なかなか見極めは難しいものがあります。



長期投資を腰を据えて実践する気概のあるファンドマネージャーとそれを応援して支えてくれる運用会社の組み合わせに、更に長期投資を目指す投資家加わらないと、場合によっては資金の流出でドットボタンになりかねません。様々な条件が揃ったファンドの中から選びぬいたファンドを組み入れる。それがファンドの宝石箱が目指す姿です。

ただ、上に申し上げたようなファンドマネージャー、運用会社、真摯な長期投資家の組み合わせたファンドがたくさんあるわけではありません。したがって選ぶといっても決して楽な試みではないのです。細かいことは申し上げませんがこれが今までのありがとうファンドの軌跡です。

5年前に1億6千万円と109人のお客様でスタートしました。そして5年の間途切れることなく毎月資金が純流入し、お客様の数も増えてきました。市場は何度も大荒れに見舞われました。そしてようやくファンドの中味も揃ってきました。9月からの6年目はその意味では新しいスタートです。人間でも動物でも最初は小さくて頼りないですがいつの間にか成長のスピードが上がるようにありがとうファンドもこれから次の段階に入ります。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

将来の展望は?

さて、過去のお話から始めましたが今度は先の話、将来の展望を考えてみたいと思ます。

先月の月次レポートの最後に「インフレかデフレか」という項目がありました。運用をする人にとって、特に長期投資であればこの問題は大きな課題です。このテーマに関して自分は次の3つのポイントで考えています。

まずひとつは、長期投資はインフレの方向に世の中が動いた時に困らないような形で行うべきだ、ということです。将来のことは確実にはわかりません。しかしインフレになっても困らない資産配分を目指すことは必要だと思ます。

次には世の中の変動には緩やかで大きなサイクルがあると思っています。そのサイクルの中でインフレの傾向もデフレの傾向も起こってきます。何度か申し上げたように今の流れは方向としてはインフレの可能性に向かって進んでいるのではないかと思ます。

3つ目は過去の経験とは違う展開が将来起こってくる可能性です。もしこれからインフレではなくデフレの流れが続くとするとその一番の要因はなんでしょう? おそらく新興国の巨大な人口が生み出す低賃金によって物価低下圧力が長く続くということでしょう。その可能性は過去のサイクルからの変化を生み出すかもしれません。ただそうした環境の変化を企業の立場で見たときには実はインフレでもデフ

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

レでも共通していえることがあると思います。

それは選別されることです。インフレもデフレも売値やコストの厳しい環境という意味では企業にとっては同じことです。その厳しさの中で生き延びていける企業が選別されるという点ではインフレであってもデフレであっても共通しているのです。

将来という点では何度も申し上げてきた世界中の国々の行っている経済危機対策や大量の流動性供給からの出口の議論も注目されています。時期はわかりませんが大きな転換点がやってくるでしょう。今後も目を離すことのできないテーマとして頭の中に残しておいていただきたいと思います。

## ご挨拶

いつもありがとうございます。ファンドをご支援いただき誠にありがとうございます。

突然ではございますが、このたび自分自身の健康上の理由から8月末日をもちましてありがとうございます。投信の社長を退任することとなりました。これまでいただいたご厚情に対しまして心より御礼申し上げます。ただご心配をいただくと申し訳ないので申し添えますが、健康上の問題と申しまして生命の危険があるというような状態ではまったくありません。その点は誤解いただきませんようお願い申し上げます。

さて思い起こしますと、ありがとうございます。投信の発起人である5人の税理士・会計士の方々の熱意に動かされ、5年前の3月にありがとうございます。投信の設立に加わりました。さわかみ投信の澤上社長が実践されていた長期投資をぜひ日本の多くの人々に活用していただきたいとの思いが新しい会社の設立につながり、日本で初めての税理士・会計士が立ち上げた投信会社としてスタートしたのです。

単に独立系投信会社というだけではなく、直接お客様にファンドを販売するという形で多くの方に運用会社を身近に感じていただけたということが、我々にとってはとても貴重なものとなりました。自分自身、この5年間にそれまでの人生とは比べ物にならない位大勢の方々とお目にかかることが出来ました。お手紙やメールをいただいたり電話でお話をさせていただいたりしたことは自分にとってはまったく新しい経験でした。多くの方に励ましていただいたことで、どれだけ前向きな力をいただいたことが計り知れないものがありました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

長期投資は長く、長く続くものです。

私が社長を退任しましてもありがとうございます。投信の現状も将来も何も変わることはございません。後でご紹介する新社長を含めて現在のメンバーは1人も変わらずに会社は続いていきます。

むしろ若返ってより勢いのある会社として発展してゆくものと信じております。私自身も当面は運用のアドバイザーとしてお手伝いをさせていただくことになっております。よろしく願いいたします。

さて、私の後任の社長にはありがとうございます。投信の運用責任者である岡大が9月1日付けで就任いたします。岡はさわかみ投信でファンドマネージャーとして活躍したのち法科大学院で学びました。ありがとうございます。投信に入社したのは1年余り前ですが、お客様と向き合い共に長期投資の道を進むという経験は十分に積んでおります。併せて運用の長い経験と法律の知識を備えております。

ありがとうございます。ファンドを運用するということは厳しい市場をお客様と一緒に戦い、生きぬいてゆく道を進むことです。新社長の岡はその旅の先頭に立ってゆく人間としてふさわしい資質を備えていると確信しております。

また弊社には会社を設立した石塚久美雄会長をはじめ発起人の方々の熱い応援がございます。社員も皆志を持った者ばかりです。

先ほど申し上げたようにありがとうございます。投信は私の退任後も今まで以上のエネルギーで進んでまいります。どうか今後ともありがとうございます。投信をこれまで以上にご支援いただきますよう心よりお願い申し上げます。

ありがとうございます。投信株式会社 代表取締役 村山 甲三郎

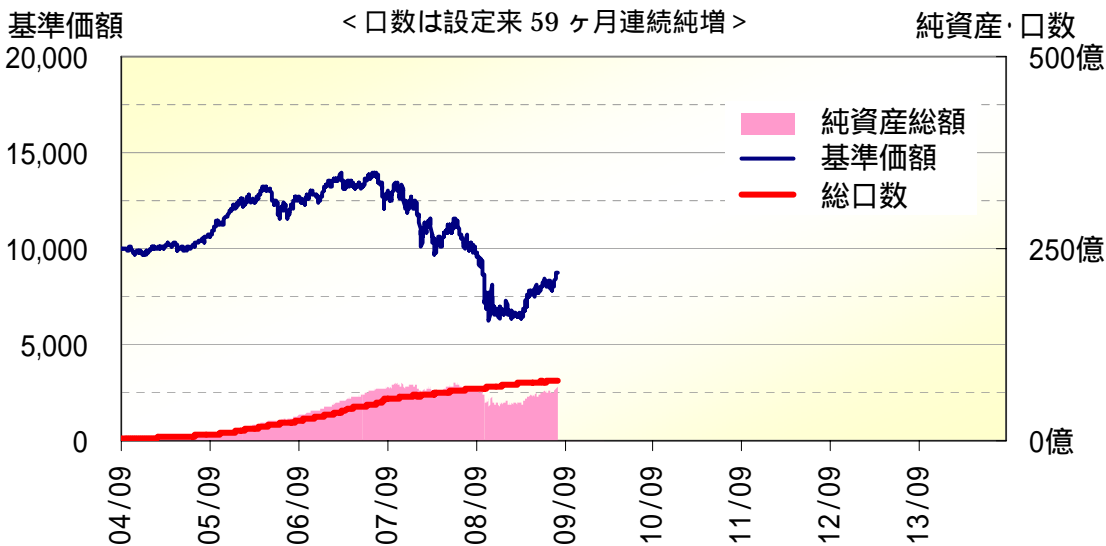
基準日 / 2009年7月31日

基準価額 8,596円  
純資産総額 67億89百万円  
受益権総口数 78億98百万口  
年率複利( ) -3.03%

期間別騰落率				
1ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
+5.1%	+26.7%	16.9%	29.3%	14.0%

「年率複利」とは、設定から現在まで運用を行った結果を、複利で換算した場合に何%でまわっていたかで表したものです。過去の実績値であって将来の成績を保証するものではなく、また個々のお客様ごとの購入時期によって運用結果は異なります。

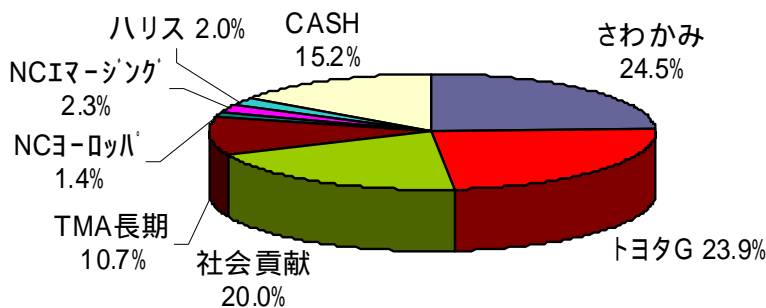
基準価額・純資産総額の推移



皆様のありがとうファンドの基準価額は、月間で4.8%上昇しました(7月1日～8月3日)。同じ時期の市場の値動きは、TOPIX(東証株価指数)が+2.2%、MSCI\*のWI(先進国指数)が+8.5%、同じくEM(新興国指数)が+9.2%、円/ドル為替は1.7%の円高となっています。

\*MSCI : モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル。世界で広く使われている株価指数を算出している会社です。騰落率はドルベースのnet指数で計算しています。

組入れファンドの比率 <7月末現在>



7月は中旬にかけて少しスピード調整をした後、月末にかけて切り返し、年初来の高値を更新しました。

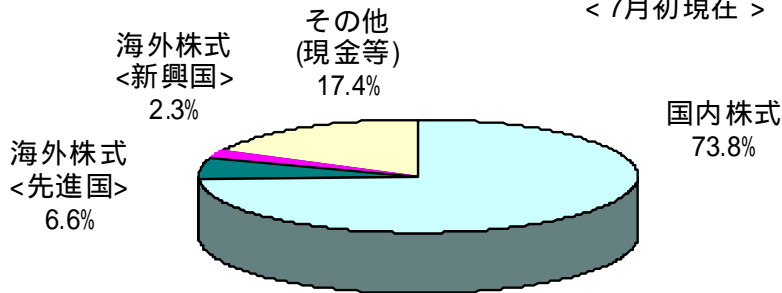
ありがとうファンドでは、引き続き、急落へのリスクに備えながら上昇にはおおむねついていけるような構えを心がけ、やや厚め

のキャッシュポジションを保ったまま、組入れファンドの売買は行いませんでした。その結果、7月末現在の組入れファンドの比率は上図のようになっています。

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

ここから当面は、一段の上昇があれば一部を売却してウェイトを減らしたり、円高に振れるなどの動きがあれば海外モノを買増したり、といった行動を予定しています。

ありがとうファンド全体(各ファンドの合計)の資産配分状況  
<7月初現在>



各組入れファンド内の配分状況を合計した、ファンド全体としての資産配分状況は左図のようになっています。

上に述べたような戦略と現在の市況等に鑑みて、現金等の比率が15~20%

程度の範囲にあれば、おおむね適正な水準になっていると考えています。

さて、ここへきて日本企業の4-6月期の決算発表が相次いでいます。総じて言うと、「恐れていたほどには悪くない。」「最悪期は脱しつつある。」といった感じの数字になっていますね。これは繰り返し申し上げてきたように、絶対水準は未だ低けれどもベクトルの向きが変わった、ということの表れではないかと思えます。7月末に発表された鉱工業生産指数を見ても、生産指数、在庫指数ともに改善を継続していますし、4-6月期のGDPが期待通りプラス成長になるのはおそらく間違いないと思われれます。

ではどうして、キャッシュを15%もかかえて「急落のリスクに備える」などと言っているのか、と不思議に思われる方もいらっしゃるかも知れません。これには、およそ以下のような理由があります。

まず、全体に輸出が堅調に推移しているのに比べて生産が伸び悩んで感じられ、設備投資も伸びていないことから、案外早く、戻りのスピードが鈍化する可能性があります。一方で、雇用統計では有効求人倍率が史上最悪を更新しており、完全失業率が5.4%に上昇して非自発的な離職による失業者が1年で78万人も増加しています。

また、同じく7月末に発表された消費者物価の生鮮食品を除く総合指数が前年同月比1.7%の下落となっており、昨年のガソリン等の高騰の影響が大きいとはいえ史上最大の下落です。家計調査の消費支出は実質で+0.2%ですが、エコカーと家電のエコポイントの効果を考えると、このレベルはどうなのでしょう。

そして、ドルが(対円で見てるとわかりにくいですが)、実はじりじりと「下げて」きています。為替の動きに理由を求めても仕方がないのでしょうけれど、『ドルは安いけれども円は更にもっと安い』という状況は、海外への投資が増えていること以上に、何か今の本質的な実態を反映しているのでしょうか。

…もちろん、長期の視点に立てば今はずっと「大きな買いゾーン」の中であって、これらのことは想定の大枠の中の小さな現象に過ぎない、というのが私たちの基本的な考え方です。しかし、このところ、市場参加者が浮かれ過ぎているようにも感じられるので、この先、短期投資家たちのバタバタのあおりを食らわない、もしも下げた時に機動的な買いをいれるための余力を残す、そういう意味で15%のキャッシュポジションをとっているのです。

CIO(最高投資責任者)  
岡 大

P.5-6 では個別企業の記載がありますが、特定銘柄の投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資の決定はご自身の判断でなさるようお願いいたします。

ここでは、ありがとうファンドが組入れているファンドを通じて投資している企業についてご紹介しています。ありがとうファンドに入れていただいている資金は、組入れファンドを通じて多くの企業に投資されています。その投資先がどんな企業なのか、皆様はご存知でしょうか？

## H & M (HENNES & MAURITZ AB ヘネス・アンド・マウリッツ)

ありがとうファンドは、「NC ヨーロッパファンドSA」を通じて、この企業に投資しています(7月末現在)。

昨年秋、銀座や原宿で、新しい洋服屋の開店初日に長蛇の列ができた、という話題を覚えていませんか？(下の写真) 9月に銀座、11月に原宿。オープンしたのは、スウェーデンから来たヘネス・アンド・マウリッツ(H&M)です。



2008年度 アニュアルレポートより

H&Mは1947年創業のアパレル製造・小売チェーンですが、過去数十年にわたって売り上げを伸ばし続けている成長企業です。過去6年をとってみると、売り上げで2倍弱(+95%増、年率にすると平均11.8%)、営業利益は約2.4倍(年率で約16%)という成長ぶり。店舗数は2008年度末(2008年11月末)時点で1738店舗で、過去10年ほどを遡ってみると、ほぼ毎年11~14%のペースで伸びてきています。

売上規模は、世界でトップクラス。日本では、ユニクロを展開するファーストリテイリングが同じ業種に属します。ファーストリテイリングのアンニュアルレポートに、世界のアパレル企業の比較表がありましたので下に引用させていただきますが、H&Mはギャップ、ZARA、

リミテッドと並ぶ大手の一角です。ユニクロも頑張っていますね。

さて、この執筆を機会に銀座の店舗を見学(?)してきました。開店から10カ月を経て流石に入店するのに列ができるということはありませんでしたが、店内はかなりの賑わいです。ファッション音痴の筆者には服の良し悪しを語る能力はまったくないのですが、敢えて感想を述べれば、店舗には特段の演出があるでもなく、むしろ何の変哲もないアパレルショップという印象です。品揃えが多いことは確かで、ところ狭しと商品が並んでいます。奇抜なデザインの服は少なく、日常的に着るための服がほとんど。自己主張するためのデザインではなく、トレンドを捉えてできるだけ多くの人を惹きつけようという意図が感じられます。そして評判通りの手頃な価格。ちょうどサマーセール時期で、1階のスペースには500円や1000円の赤いタグもはためいていました。

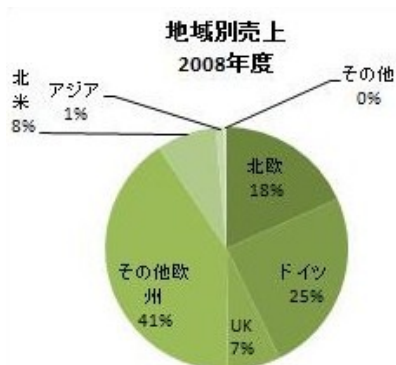
世界の主なSPA(アパレル製造小売)企業				
企業名(主なブランド名)		決算期	売上高(億円)	前年比
ギャップ	アメリカ	2008/1	17,237	▲1.0
インディテックス(ZARA)	スペイン	2008/1	15,175	15.1
H&M	スウェーデン	2007/11	13,421	14.5
リミテッド	アメリカ	2008/1	11,082	▲5.0
ネクスト	イギリス	2008/1	6,662	1.4
ファーストリテイリング(ユニクロ)	日本	2008/8	5,864	11.7
ポロラルフローレン	アメリカ	2008/3	5,336	13.6
(注)2008年8月末時点の為替レートで円換算				

H&Mの経営理念は「ファッションとクオリティを最良の価格で」。いたってシンプルな表現ですが、これらの三要素が揃えば顧客のボリュームゾーンを捉える事が出来る、ということは容易に想像できます。また「ファッション・コンセプト」として、ターゲットとするのはファッションに関心のある人すべてであり、幅広い顧客層を意識しているということですから、店頭で見た「自己主張しない」印象も納得がいきます。価格も良し。ただし、品質は使ってみなければ何とも言えません。

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申ください。

H&M の業態はアパレル製造小売り、略して SPA と呼ばれます。日本では基本的に、先述のユニクロ出現以前には存在しなかった業態です。デザインから小売りまで一貫して手掛けることで、最大の効率化を実現しようというものです。H&M の場合、工場も店舗も自社では一切所有せず、デザインと、プロセスの管理だけを行います。100 人余りのデザイナー・チームが生み出すデザインを、主にアジアとヨーロッパにある 700 もの提携工場に振り分け、品質を管理し、店舗に届ける、という作業です。その各段階で無駄を排し、コストを抑えることに成功しているわけです。

我々に身近なユニクロと比較してみますと、「ファッション」「品質」「価格」のうち、H&M は「ファッション」の要素により重きをおいている企業と言えるでしょう。世界的な著名デザイナーとのコラボレーションも常に商品化しています。一方のユニクロは、素材へのこだわり、機能性商品の企画、提携工場への技術指導など、より「品質」に比重があると言えるでしょう。「価格」もユニクロの強みですが、H&M がはるかに多彩なデザインを取りそろえ、はるかに多くの工場で生産していることを考慮すると、そのコスト競争力は非常に強いと言えます。



では、最近の業績を見てみましょう。2008 年度の売上は 1040 億クローネで前期比 +13%、営業利益は 201 億クローネで +9.5% でした。上昇トレンドが続いていた営業利益率は前年より下がりましたが、付加価値税を除いたベース\*で 22.7% を保っています。高収益のユニクロが 15% 程度ですから、非常に高い水準です。世界的な景気低迷の影響をやはり受けているのか、プラス基調にあった既存店売上が、昨年の半ばあたりからマイナス圏に入り、今期に入ってもマイナス基調が続いています。今期も利益率は下がる可能性が高そうですが、新規出店に関しては相変わらずのペースが続きます。今期の新規店舗は 225 (+13%) が計画されており、6000 ~ 7000 人の採用も予定されています。景気の低迷期は出店交渉も人員の採用も有利に進めることができるため、業容拡大の好機とも言えるのです。

注)\* 営業利益の段階で、付加価値税 (VAT) 分が既に差し引かれているので、営業利益率は VAT 分を差し引いた売上を基に算出。

アジア・中東地域への進出は始まったばかり。まだ売上全体の 1.5 % 程度に過ぎません。日本では今年から来年にかけて渋谷、新宿、大阪、と出店が続くようです。中国への進出は日本に先立つ 2007 年、2010 年にはロシアにも初めての店舗を開く計画です。開拓できるマーケットはたくさん残されています。拡大していく店舗網に対応し、2007 年度には社内システムを大幅に見直しました。各地域グループの機能も充実させつつあります。如何に効率と品質を同時に保っていくか、今後ますます H&M にとっての重要な課題となってゆくでしょう。新しい国、新しい文化のもとでのビジネスに挑戦する時こそ、「ファッションとクオリティを最良の価格で」。このシンプルな理念が効いてくるはずです。

(投信企画運用部 ファンドマネージャー 川元由喜子)

<p>小売のロック スター、 原宿に進出。</p>	<p>2008 年度のアニュアルレポート(Part )は、左のように始まって右のように終わっています</p>	<p>НОВОСТЬ О ТОМ, ЧТО H&amp;M НАКОНЕЦ ОТКРЫВАЕТ МАГАЗИНЫ В РОССИИ. ВСЕХ ОЧЕНЬ ОБРАДОВАЛА*</p>
-----------------------------------	--	---

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申ください。

グラフはすべて組入れ時を 100 として指数化し、期間をありがとうファンド設定来で統一して表示しています。

## さわかみファンド



### 株式組入上位10銘柄

	銘柄	コード	業種	組入比率
1	ブリヂストン	5108	ゴム製品	3.03%
2	花王	4452	化学	2.92%
3	パナソニック	6752	電気機器	2.81%
4	コマツ	6301	機械	2.63%
5	SUMCO	3436	金属製品	2.41%
6	トヨタ自動車	7203	輸送用機器	2.41%
7	信越化学工業	4063	化学	2.10%
8	セブン&アイ・ホールディングス	3382	小売業	2.06%
9	デンソー	6902	輸送用機器	1.97%
10	商船三井	9104	海運業	1.78%

上記比率は、純資産総額に対する比率です。

## トヨタグループ株式ファンドF (適格機関投資家専用私募)



### マザーファンド株式組入上位10銘柄

	銘柄	コード	業種	保有比率
1	トヨタ自動車	7203	輸送用機器	50.30%
2	デンソー	6902	輸送用機器	16.55%
3	豊田自動織機	6201	輸送用機器	5.59%
4	アイシン精機	7259	輸送用機器	4.81%
5	豊田通商	8015	卸売業	3.45%
6	ダイハツ工業	7262	輸送用機器	3.05%
7	豊田合成	7282	輸送用機器	2.55%
8	トヨタ紡織	3116	輸送用機器	2.33%
9	ジェイテクト	6473	機械	2.31%
10	あいおい損害保険	8761	保険業	2.28%

個別銘柄の保有比率は、現物株式の組み入れ = 100% とした各銘柄の比率です。

## 社会貢献ファンド (適格機関投資家専用)



### マザーファンド株式組入上位10銘柄

	銘柄	コード	業種	構成比率
1	堀場製作所	6856	電気機器	3.8%
2	クラレ	3405	化学	3.4%
3	伊藤園	2593	食料品	3.1%
4	トヨタ自動車	7203	輸送用機器	3.1%
5	高砂熱学工業	1969	建設業	3.1%
6	ダイセキ	9793	サービス業	3.0%
7	ホンダ	7267	輸送用機器	2.9%
8	キャノン	7751	電気機器	2.9%
9	リコー	7752	電気機器	2.8%
10	KOA	6999	電気機器	2.7%

構成比は、現物株式ポートフォリオに占める比率です。

## TMA長期投資ファンド (適格機関投資家限定)



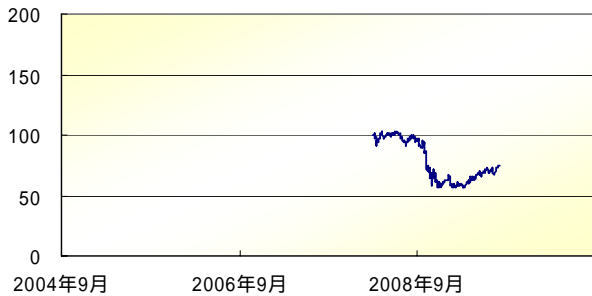
### マザーファンド株式組入上位10銘柄

	銘柄	国	業種	比率
1	NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	3.7%
2	信越化学工業	日本	基礎素材	3.7%
3	キーエンス	日本	産業用エレクトロニクス	3.6%
4	BERKSHIRE HATHAWAY INC.-CL A	アメリカ	保険	3.5%
5	テルモ	日本	医薬品・ヘルスケア	3.2%
6	花王	日本	家庭用品	3.1%
7	トヨタ自動車	日本	自動車	2.8%
8	JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬・バイオ・ライフ	2.8%
9	BARRICK GOLD CORP	カナダ	素材	2.5%
10	PETROLEO BRASILEIRO S.A.-ADR	アメリカ	エネルギー	2.4%

比率は、マザーファンドにおける純資産総額に占める割合です。

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

## ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドS A (適格機関投資家限定)



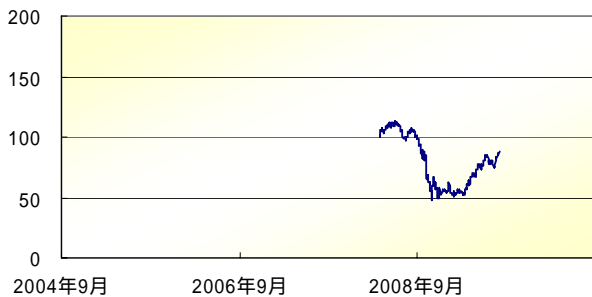
騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	5.1%	30.6%	-23.3%	-24.8%

### マザーファンド株式組入上位10銘柄

	銘柄	国	MSCI業種分類	比率
1	DANONE	フランス	生活必需品	8.2%
2	ROCHE HOLDING AG	スイス	ヘルスケア	7.4%
3	SYNTHES INC	スイス	ヘルスケア	7.0%
4	RECKITT BENCKISER	イギリス	生活必需品	6.8%
5	CAPITA GROUP PLC	イギリス	資本財・サービス	6.5%
6	ESSILOR INTL	フランス	ヘルスケア	4.6%
7	HENNES & MAURITZ AB	スウェーデン	一般消費財・サービス	4.5%
8	SODEXO	フランス	一般消費財・サービス	3.9%
9	NOVO NORDISK A/S-B	デンマーク	ヘルスケア	3.9%
10	HEINEKEN NV	オランダ	生活必需品	3.5%

比率は、マザーファンドにおける純資産総額に占める割合です。

## ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドS A (適格機関投資家限定)



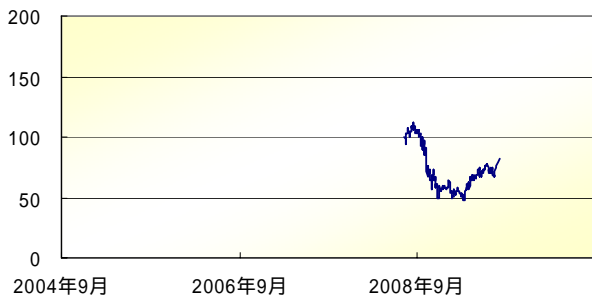
騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	9.2%	63.7%	-17.7%	-12.4%

### マザーファンド株式組入上位10銘柄

	銘柄	国	MSCI業種分類	比率
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR-ADR	台湾	情報技術	5.5%
2	MTN GROUP LTD	南アフリカ	電気通信サービス	4.1%
3	JBS SA	ブラジル	生活必需品	4.0%
4	EMPRESAS COPEC SA	チリ	資本財・サービス	3.2%
5	CHINA MOBILE LTD	中国	電気通信サービス	3.1%
6	MOBILE TELESYSTEMS	ロシア	電気通信サービス	3.1%
7	GOLD FIELDS LTD	南アフリカ	素材	3.0%
8	CHINA LIFE INSURANCE	中国	金融	3.0%
9	TIM PARTICIPACOES SA	ブラジル	電気通信サービス	2.8%
10	AMDOCS LTD	イスラエル	情報技術	2.8%

比率は、マザーファンドにおける純資産総額に占める割合です。

## ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド 2007 (適格機関投資家専用)



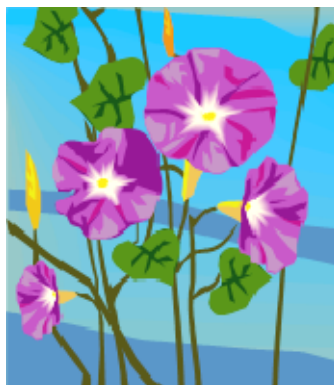
騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	10.0%	50.5%	-22.4%	-18.5%

### マザーファンド株式組入上位10銘柄

(組入れ銘柄は2009/6/30現在)

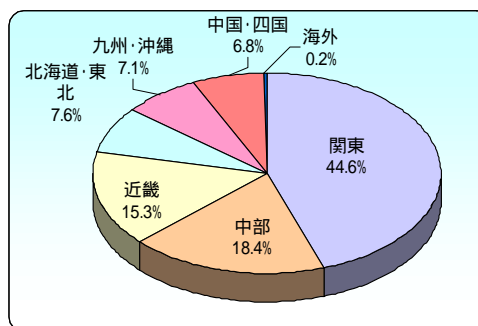
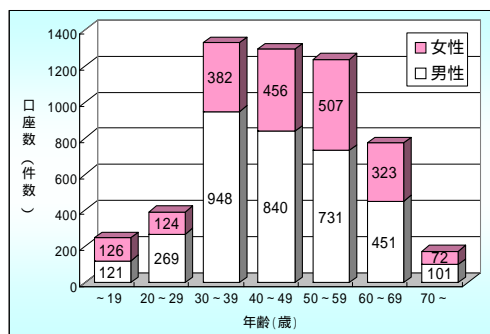
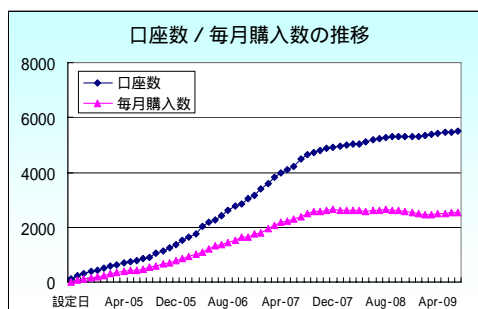
	銘柄	国	業種	構成比率
1	INTEL CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	6.6%
2	JULIUS BAER HOLDING AG-REG	スイス	各種金融	4.8%
3	HEWLETT PACKARD CO	アメリカ	テクノロジー・ハード機器	4.3%
4	BANK OF NEW YORK MELLON CORP	アメリカ	各種金融	3.9%
5	FRANKLIN RESOURCES INC	アメリカ	各種金融	3.6%
6	CIE FINANCIERE RICHEMON-BR A	スイス	耐久消費財・アパレル	3.6%
7	DAIMLER AG-REG	ドイツ	自動車・自動車部品	3.4%
8	CARNIVAL CORP	アメリカ	消費者サービス	3.2%
9	ADECCO SA-REG	スイス	商業・専門サービス	3.1%
10	SAP AG	ドイツ	ソフトウェア・サービス	3.0%

構成比は、現物株式ポートフォリオに占める比率です。



口座数の推移と年齢・地域分布

顧客数	前月比
5,491名	+21名
個人比率	毎月購入比率
99.3%	46.2%



ありがとう便り

「ありがとうファンド運用開始から今月末で5周年を迎えます！」

早いもので、ありがとうファンドは8月末で運用を開始してから5周年を迎えます。まだ5年、もう5年とお客それぞれ感じ方は異なるかもしれませんが、ありがとう投信は、業界で初めて直販のみの販売体制を採用しました。この5年間多くの困難を乗り越えてお客様と共にここまで歩んできたことができました。本当に感謝申し上げます。現在、5周年を記念しての新たな試みも企画中です。これからも社員一同力を合わせて頑張ってお参りますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

ありがとう投信 カスタマーサービス部

毎月購入サービスのスケジュール

今後の毎月購入サービスになります。各締切日に間に合わない場合、翌月の取り扱いとなりますので予めご了承下さいませようお願い申し上げます。

	新規申込・口座変更	金額変更・中止	引落日	ファンド購入日 (約定日)
平成21年9月分	受付終了	8月26日(水)	9月7日(月)	9月17日(木)
平成21年10月分	9月3日(木)	9月24日(木)	10月6日(火)	10月19日(月)

月次レポートの受取方法について

インターネットをご覧になれる環境をお持ちのお客様には、月次レポートのEmail受取にご協力をお願いしております。(変更はホームページ、お電話等で承っております。)最新の月次レポートは、原則月初め第4営業日以降、弊社ホームページ上でいち早くご覧いただけます。なお、ありがとうファンドの保有残高が「0」のお客様につきましては、月次レポートの郵送を中止(メールアドレスをご登録されているお客様にはEmail配信)させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。お客様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。



## 長期投資家がニヤリとする7つのメカトレンド

著：澤上篤人 / 出版社：角川SSC新書



金融資本主義の崩壊からその転換、そして実物経済主義へ。資産運用に取り組まれている方なら、日々のニュースから断片的にこの変化を感じ取っていることと思います。日本のウォーレンバフェットとも称される澤上氏の論理展開はそれらの断片的情報を有機的に結びつけるのに非常に役に立ちます。短期的には必ずしも正しい情報が流れているとは言えない金融市場に関する情報を、市場に徐々に明るさが見え始めた今、長期的な視点からあらためて整理し直して置くことは非常に大切なことだと考えています。

(ありがとう投信 伝能 浩)

### 『ありがとうファンド』の概要

商品分類	追加型投信 / 内外 / 資産複合 / ファンド・オブ・ファンズ
信託期間	無期限
決算と収益分配	毎年8月31日(休業日の場合は翌営業日)
お申込単位	1,000円以上1円単位
お申込価額	取得申込受付日の翌々営業日の基準価額
ご解約単位	1円以上1円単位
ご解約価額	解約請求受付日の翌々営業日の基準価額
委託会社 (販売会社)	ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号(社)投資信託協会会員
受託会社	日興シティ信託銀行株式会社 登録金融機関 関東財務局長(登金)第25号(社)日本証券業協会会員

### 『ありがとうファンド』にかかるリスク

主なリスク 「価格変動リスク」、「流動性リスク」、「ビジネスリスク」、「為替リスク」、「カントリーリスク」、「ファンド資産の流出によるリスク」

当ファンドは、ファンドオブファンズであり、国内外の投資信託証券などの値動きのある証券に投資します。また、外貨建て投資信託証券に投資する場合には為替の変動もあります。なお、投資信託証券の組入証券の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本が割り込むことがあります。ファンドに投資することに伴うリスクはお客様のご負担となりますし、ファンドへの投資による損益も全てお客様に帰属します。また元本及び利息の保証はなく、預金保険の対象でもありません。

### 『ありがとうファンド』にかかる手数料等

お申込手数料	手数料はありません。
ご換金(ご解約)手数料	手数料はありません。
信託財産留保額	信託財産留保額はありません。
信託報酬	ファンド純資産総額に年0.945%(税抜0.9%)の率を乗じて得た額とします。 [実質的信託報酬 信託財産の純資産総額に対し年1.6%±0.3%(概算)] 当ファンドは他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。
その他の費用等	当ファンドに組み入れるファンドを売買する際に発生する売買委託手数料およびこれにかかる消費税相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。 実費の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。